

令和6年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	5208	学校名	中津高等学校（定時制）
------	------	-----	-------------

学校教育目標 (教育方針)	1 人間尊重の精神を基調として、生徒一人一人との心のふれあいを深め、信頼と愛情に基づく教育実践に努める。 2 勤労生徒としてのたくましい心身と強い責任感を高揚し、民主的社会の担い手として調和の取れた人間性豊かな生徒を育成する。	
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【GP】	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力と生きる力を身に付けることで、自信を持って自らの人生を切り拓くことのできる生徒 協同をとおして他者との信頼関係を築きながら、一歩前に踏み出せる生徒 様々な参加機会を活用して自らの役割を理解し、家庭・地域・社会の担い手となる生徒
	生徒をどう 育てるか 【CP】	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの興味・関心・能力・経験等に合わせ学びの楽しさを育む授業の工夫と基礎学力指導 少人数でアットホームな学校生活の中で自己効力感や信頼関係を育む学校文化の維持・発展 様々な学校行事や就労体験を通じた自己有用感の育成
	どんな生徒を 待っているか 【AP】	<ul style="list-style-type: none"> 自らの課題に対して4年間努力して前向きに取り組もうという意志のある生徒 仲間や教師など他者との信頼関係を築き、自らの可能性を広げたいという生徒 卒業後の進路を見据え学業と就労の両立を図り、学校行事に積極的に参加しようとする生徒
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> 不登校傾向の生徒が多く、基礎学力の定着が不十分な生徒が多い。 対人関係や集団での行動が苦手な生徒が多い。 将来の見通しを持たず、自己の将来設計が立てられない生徒が多い。 保護者との連携が十分に取れない家庭が少なからず存在する。 	
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標
	学校経営	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の安心、安全を確保し、個々の成長に応じた自立支援を行う。 「教職員の働き方改革プラン」を推進し、教職員の長時間勤務や多忙化解消に向けた努力を行う。
	学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 生徒個々の躰きを理解したうえで「学び直し」の要素を取り入れ、個々の学習到達段階に応じたきめ細やかな学習支援を心掛け、基礎学力の定着を図る。 生徒の興味・関心を高め、学習の定着を図るため、ICT機器の効果的な活用を図る。
	生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 毎日職員連絡会を行い、生徒情報を共有することで、職員の共通理解のもとに個々の生徒の指導・支援を行う。 様々な学校行事を通して自己有用感を育成する。
	進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 将来に見通しを持ち、早い段階から将来設計を家族を交えて検討する。 基本的な生活習慣を確立し、経済的自立に向けた一歩を踏み出す。

年度目標			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な具体的な取組・方策	県教育振興基本計画での位置付け	達成度の判断・判断基準あるいは評価指標
学校経営	・誰一人取り残さない学びの機会を確保するため、個々の状況に応じた丁寧な支援体制を工夫する。	23	施策Ⅳ-23
	・災害安全や交通安全、情報モラル等の安全教育を重点的に実施し、生徒の安全確保に努める。	19	施策Ⅲ-19
	・生徒一人一人がかげがえのない存在であることを認識し、学校行事等を通して自己有用感を醸成する。	1	施策Ⅰ-1
	・あらゆるハラスメントを未然に防止するため、職員会議や職員研修を通して職員のコンプライアンス意識向上を図る。	28	施策Ⅳ-28
学習指導	・誰一人取り残さない学びを提供し、個に応じた基礎学力を育成する。	23	施策Ⅳ-23
	・生徒の情報活用能力を向上させるため、授業において効果的なICTの活用を工夫する。	9	施策Ⅱ-9
	・個々の生徒の習熟度に応じた個別の学習支援を行い、「学び直し」の視点を大切にする。	8	施策Ⅱ-8
	・「通級による指導」を効果的に活用し、発達障がいのある生徒に対し、適切な支援を行う。	21	施策Ⅳ-21
生徒指導	・生命尊重の理念に基づき、外部機関から講師を招き、健康、安全、防災等の意識向上を図る。	19	施策Ⅲ-19
	・個人面談や教育相談等を通して、個々の理解に努め、共通理解のもとに必要な支援を行う。	3	施策Ⅰ-3
	・学校と地域、家庭との連携を強化することで、生徒の安全・安心な居場所づくりの整備を図る。	7	施策Ⅰ-7
	・外部講師を積極的に活用して主権者教育、消費者教育の充実を図る。	12	施策Ⅱ-12
進路指導	・インターンシップ等職業体験活動への積極的な参加を図る。	14	施策Ⅱ-14
	・家庭を交えて進路に関する話し合いを重ねることで、家庭と連携した進路支援を行う。	7	施策Ⅰ-7
	・地域の産業界と積極的な情報交換を行い、キャリア教育の充実を図る。	13	施策Ⅱ-13
	・将来の自己のあり方や生き方について主体的に考え、一歩を踏み出す力を支援する。	22	施策Ⅳ-22

年度末評価(自己評価)			
取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合評価 A. B. C. D
<ul style="list-style-type: none"> ・毎日生徒に関する情報交換を職員会で言い、共通理解のもとで生徒支援を行った。 ・生徒の安全の確保を第一に考え、各種安全講話を実施し、生徒への情報提供を行った。 ・生徒が主体的に参加できる学校行事を数多く企画した。 ・職員研修や普段の連絡会を通してハラスメントの未然防止やコンプライアンス意識の向上に努め、職員間の良好なコミュニケーションの構築を図った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた生徒支援を実践した結果、学校評価アンケート結果で、生徒、保護者共に8割以上が肯定的意見であった。 ・外部講師を招いての各種安全講話は生徒にも十分な刺激となった。 ・集団で行動することが苦手な生徒が、繰り返し学校行事を欠席した。 ・疲労蓄積度チェックやエントリーシートにおいても職員の心身の健康状態は概ね良好であった。 	B
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学力を的確に把握し、個に応じた基礎学力の育成を図った。 ・どの教科もタブレットやプロジェクター等を有効に活用し、指導の工夫を図った。 ・各教科で「学び直し」の視点に立った教材開発を積極的に推進した。 ・「通級による指導」の職員研修会を実施し、職員の共通理解を図った。また、特別支援教育的なアプローチも適時行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒間の学力差が大きいため、ひとり一人に必要な基礎学力の育成が十分に追いつけない。 ・基礎学力の育成を更に推進するため、教材開発やICT活用のより一層の充実を図る必要がある。 ・ユニバーサルデザインや通級指導の効果的な活用を研究・推進する。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師を招いての講話については計6回実施した。 ・定期的実施する二者懇談、三者懇談に加えて必要に応じてその都度生徒と面談を行った。 ・中津川市の子ども家庭課や恵那市の子育て支援課と情報交換を頻繁に行い、外部機関との連携を図った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師を活用したことで、多くの生徒の意識向上につながった。 ・日々生徒の情報を共有していくことで、生徒の変化に対応し、家庭との連携を十分に行うことができた。 ・外部機関との情報共有は十分にいたった半面、具体的な解決策を見出すまでには至らなかった。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態に応じてインターンシップを実施した。 ・生徒の希望を尊重したうえで、家庭を交えた話し合いの機会を十分に設けた。 ・地元企業への見学会や地元企業の合同説明会へ積極的に参加し、情報収集に努めた。 ・総合的な探究の時間を計画的に利用してキャリア教育の計画・立案を実践した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ希望者が少なかった。 ・保護者との十分な情報共有ができたため、生徒の希望進路実現につながった。 ・地元企業の魅力を知る良い機会となり、生徒への情報提供を行うことができた。 ・生徒の発達段階に応じた支援を提供したが、より一層個への対応が必要である。 	

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和7年1月15日

<ul style="list-style-type: none"> ・職員の心身の健康状態は概ね良好で、職員間のコミュニケーションも十分に機能している。働きやすい職場づくりをより一層推進するためにこの状態を維持、発展させていく。 ・生徒の基礎学力を確実に伸ばすため、ICT機器を効果的に使い、個に応じた支援のより一層充実を図る。 ・保護者の学校行事への参加を促し、学校での生徒の実態把握をする機会を増やし、より一層学校と保護者が連携して生徒支援に役立てる。 ・生徒・保護者が入学時から系統的に見通しをもって進路研究ができるようにするため、定時制版進路の手引きを作成し、キャリア教育に活用する。

学校関係者評価

実施日：令和7年2月13日

<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体で動くことができるような授業の工夫をする必要がある。 ・下級生のうちから進路を意識させる指導や支援が必要になってくる。 ・定時制の存在価値を感じることができた。今後は通級の効果的な運用を期待している。 ・ICTの効果的な活用によって、生徒の学習意欲を喚起し、基礎学力の向上に役立ててもらいたい。 ・ICTの活用も大事だが、生徒との直接対話も大事にしてほしい。 ・定時制の職員は概ね心身の健康状態が良好であると同ったが、表面に現れていないだけで、ストレスをため込んでいる職員がいる可能性もある。そのことも考えて現状に安心することなく、良好な職場を引き続き保ってもらいたい。
--